



浜家連 ニュース12月号

第268号

2022年12月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836

URL <http://hamakaren.jp/>

みんなねっと広島大会に参加して

副理事長 井汲 悦子

2022年10月13日・14日広島市の JMS アステールプラザで、公益社団法人広島県精神保健福祉家族会連合会とみんなねっとの主催で、「愛と自立を語ろう」～みんなが自立し心ゆたかに住み続けられる平和な社会を目指して～をテーマにみんなねっと広島大会が開催された。全体会は会場とオンライン、分科会は会場とアーカイブ配信で行われた。開催地が広島市ということで、特別講演には、原爆体験証言者による原爆被爆体験もあった。テーマの主旨は「精神障害者一人ひとりが尊重され、自立して家庭を持ち地域で安心して社会生活を送ることができる共生社会の実現に向けて」ということだった。広島県知事や広島市長など来賓祝辞では、共生社会の実現と平和への強い思いが語られていたのが印象的だった。



全体会はオンラインで参加した。広島県障害者自立支援協議会会長石井知行氏が「地域において精神障害者と家族が安心して暮らせるために」というテーマで基調講演をされた。内容はみんなねっとに掲載される予定。次にみんなねっとの岡田理事長より2021年度の事業、活動報告があった。重点課題としては賛助会員の減少に Web の積極的な活用、精神科医療への提言のまとめと発表、精神保健福祉への提言のまとめ、多様な家族との連携活動の充実、医療費助成の要求推進、交通運賃割引制度への働きかけなど。ここで、今年度より近畿日本鉄道の割引が開始されたとの報告があった。さらに精神疾患の高校教科書検定に向けて働きかけを強化し、群馬大学の福田正人先生たちがまとめた高校生向け冊子「君のことを気にかけている、親の思い、保健室のつぶやき」の作成、普及に協力したことも報告された。

続いて、「誰もが自分らしく暮らせる地域のために」～みんなで考える地域精神保健のありかた～というテーマで国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部 藤井千代氏の特別講演があった。藤井氏は、両親が精神の病で、生活困窮、生活破綻、どこに相談に行ってもいいかわからない、治療につながらない、医師が家族の話聞いてくれない（本人ではないので）入院させたことへの罪悪感、退院になっても住む家が見つからない、遺伝への不安などを経験されたというところから話を始められた。家族だけではどうにもならない、連れて行くのは至難の業。ではどうすれば改善されるか。「アウトリーチ、早期支援、多職種・多機関の連携、地域ケアの充実、正しい知識」があげられた。アウトリーチには3種類ある。保健中心（自治体）、福祉中心、医療中心（医師）。地域全体のサポート力は上がってきているが、医療はいまだ及び腰である。心の課題は生活上の課題と切り離せない。公助の大切さ、地域住民の理解が必要。精神障害にも対応した地域包括ケアシステムはなぜ“にも”なのか。現実社会に精神障害に対して差別、偏見、システム上の別扱いがあるためあえて言っている。わざわざそう言わなくてよい社会を目指す。適切な公助、共助があれば、自助、互助が無理なくできる。本人や家族からの声を届けることができる仕組みを作ることが大切。

藤井千代氏のお話は家族の現状を踏まえた納得できる内容であり、これからの方向を示しているように感じた。

2日目の分科会はアーカイブスで「高校教科書（保健体育）」に参加した。スクールソーシャルワーカーと島根県連の理事さんが問題提起をされた。質疑応答では、「40年ぶりの授業で、高校1年生に4時間という時間で正しく伝えられるか心配」「副読本や生の声が必要ではないか」「伝える側の教師の資質が問われる。教師自身に偏見はないか」「生徒も教師も共に学んでいて欲しい。最初から教師に圧力をかけても無理がある」などの意見が出された。助言者の社会福祉法人広島いのちの電話理事・運営委員長永川邦久氏が10代半ばで精神疾患の半分以上が発症する。高校からでは遅い、小学校高学年から必要である。知識としてだけでは不十分、自分の事としてとらえられるようにする必要がある。そのためにも相談できる環境づくりが大切とまとめられた。

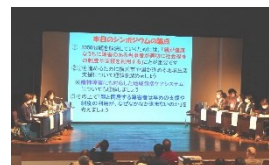
第2回市民メンタルヘルス講座が開催されました

第2回 市民メンタルヘルス講座開催報告

みなみ会 土屋 克也

概要

- 1 日時 2022年10月15日（土）
- 2 場所 横浜市健康福祉総合センター4階ホール
- 3 講演テーマ 親が健康な内につながっておきたい横浜市や国の支援
- 4 講師 横山秀昭さん（NPO法人 大地の会 理事）
- 5 シンポジスト 泉区福祉保健センター 大倉よしのさん
緑区生活支援センター 久米野清美さん
訪問看護ステーションかわい 川井雪詠さん
しあわせ介護（ヘルパー） 細川佳宏さん
さざなみ計画相談センター 岡田栄子さん
栄区後見的支援室とんぼ 長谷川敏子さん
旭区生活支援センターほっとぽっとピアサポーター秋さん



10月15日桜木町駅近くの横浜市健康福祉総合センター4階ホールにて令和4年度第2回市民メンタルヘルス講座が開催された。当日、200名を超える事前申し込みを頂き、受付開始時間前より来訪者の熱気に押された感がホール全体を包み込んでいた。まずは、当会の宮川理事長の挨拶に続いて、来賓出席頂いた佐渡美佐子横浜市健康福祉局障害福祉保健部障害施策推進課長の挨拶を頂いた。

そのあと、司会進行役から講師である横山さんに進行役がバトンタッチされ本日のテーマ「親が健康なうちにつながっておきたい横浜市や国の支援」を題材に横山さんからシンポジスト7名の方々の講演が始まった。

皆さんのお話しは、会場に詰め掛けた家族を障害者に持つ聴衆者を十分慮（トリコ）にする内容で一言で言えば時流に合致した内容と言えた。

それは、今回のテーマである「親が健康なうちに・・・」は、私たち障害者を持つ家族が一番に気に掛けている「親、亡き後・・・」の課題とまったく一緒なことを痛切に感じたからと言える

この課題は、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築」略して「にも包括」とも呼ばれているもの。この考えは、住んでいる所（居住地）を中心として医療、相談、社会参加（デイケアや就労等）、地域での助け合い（自治会など）、高齢者・障害者の介護、障害福祉事業者のサービスを横の繋がりで組み合わせた内容です。

この組み合わせにより、相談する入口（窓口）が区役所の高齢・障害課窓口、生活支援センター、基幹相談支援センターです。

その相談先の住所や連絡先は、当会が発行する「横浜市の精神保健福祉ガイド（第10版）2022年3月刊行」やスマートフォンからは、横浜市障害福祉のあんないアプリから探すことが可能です。

また、仲間意識を持って、楽な気持ちで相談する方法として、当会も横浜市から委託を受けて参加している電話相談（ピア相談）、水曜日と日曜日（除く祝日）午前10時から午後4時に「電話番号045-474-2275」で受け付けています。

一人で心配されても中々進みません。気持ちを和らげる意味でも各機関を是非ご活用下さい。

増喜 浩二氏を偲ぶ

浜家連の常任理事として、ブロックフォーラムのマニュアルづくり、障害者の「差別を感じているアンケート」などで活躍された増喜 浩二氏が亡くなりました。

みなみ会だより(2022年10月)に掲載された追悼文を紹介します。

追悼 増喜 浩二 様

みなみ会 加藤 貞子

去る6月7日、みなみ会会員の増喜浩二様のご家族に見守られ静かに旅立たれたことをつい先日伺い驚きました。

増喜様は、平成25年に入会されました。パソコン操作に精通され、精神関連にも大変勉強熱心な方で、入会翌年には是非とお願いして副会長になっていただきました。みなみ会活性化の為、又、浜家連の理事としても大事なアンケート調査のまとめ役、書類の作成など大活躍され理事の皆様から信頼され感謝されていらっしゃいました。

そのような中、平成29年2月の浜家連Cブロック「市民精神保健フォーラム」 糸川昌成先生講演会「脳のふしぎ」では、みなみ会担当でしたので準備に一年以上前からかかり、いつも先頭に立って私たち役員を引っ張って下さいました。その時の細かい作業実録を「実施マニュアル」にまとめ、CDと文章を作成されました。他の家族会が同企画担当の時、大変参考になり重宝されたそうです。

その他、みなみ会の会員さんの為にも沢山、重要な書類を作成して下さいました。そして、残念なことに、その頃には徐々に難病ALSが進行し、平成29年4月総会終了後（その時は車イスで参加）役員を退任されました。ALSとは（筋萎縮性側索硬化症）・・・体を動かすのに必要な筋肉が徐々に痩せていき力が入らなくなる原因不明の病気です。

それからはこの大変な難病との闘いの日々をご自宅で、奥様の献身的な介助と医療者の訪問で支えられながら一心に趣味の版面制作に打ち込まれたそうです。それは身を削るような努力の毎日で、パソコンのマウスをわずかに力が残った左手に握らせてもらい、ベッドに仰向けに寝たまゝの状態です。

その遺作品となったパソコンがささえる絵の世界「横浜市内巡回展 増喜浩二作品展」を先日ラポール横浜で拝見することができました。2017年（平成29年）から2019年の作品を中心に14点の展示でした。どれも力強く細部の動きまで美しく描かれ（鏡獅子、金剛力士、不動明王、明月院、倉敷美観など）、色彩もすばらしく、大作もあり、とても感動しました！！この作品展プロフィールの中で、ご本人は「活かせる身体を使って趣味の世界を試行錯誤しながら広げてきた。完成までは、苦しくもあり、遠い道のりだったが、達成感はある力になる」とおっしゃっています。献身的な奥様の介助で描くことが生きる力になったのですね。

増喜浩二様と奥様に心より、感謝と敬意と哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。



§ 障神奈連と障全協のご紹介 §

副理事長 安富英世

今年度より、浜家連から幹事として私が関係団体である障神奈連の幹事会・事務局に派遣されることが浜家連総会で承認されましたので、この機会に改めて障神奈連の紹介をいたします。

障神奈連は、「障害児者の生活と権利を守る神奈川県連絡協議会」の略称で2000年に結成され、浜家連以外に12団体の計13団体で構成されています。

浜家連以外には、視覚障害者や肢体障害者の当事者団体、作業所連絡会の神奈川支部、県立障害児学校の教職員組合、横浜市従業員労組の福祉衛生支部、県職員労組の保健福祉連絡協議会等と多彩です。障害の違いを越えて、当事者だけでなく家族や支援者が、福祉制度やまちづくりの改善、障害児教育の充実、障害者諸問題の解決と障害者の人権保障を求めて、県や市町村、関係機関に対し働きかける活動をしていて、対象は神奈川県全域です。

障神奈連は、「障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会」（障全協）に加盟し、全国の仲間と共に国（主に厚生労働省）に向けた取り組みを行っています。また、障害者をめぐる情勢や問題、私たちの要求実現を目指す取り組み、学習会等の催し、各団体の意見・見解等について情報提供しています。

浜家連の会員の方々には、浜家連を通じて様々な署名活動等にご協力いただき、神奈川県知事、衆・参両院議長等に提出してきました。社会情勢は、一段と厳しさを増しています。今後も障神奈連や障全協に関心を持って見守っていただき、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

§ イベント情報 §

◆2022年度 第5回 市民メンタルヘルス講座◆

「精神疾患がある人の恋愛、結婚、子育て」

日時：2023年1月21（土）

午後1時30分～午後4時（開場 午後1時）

会場：横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

・Zoomによる視聴もできます。

講師：横山 恵子 氏

（横浜創英大学看護学部・大学院看護学研究家教授）

水月琉凧氏（子育てピアサポートグループ ゆらいく代表）

根本俊史氏（YPS 横浜ピアスタッフ協会 めんちゃれ代表）

和田公一氏・和田千珠子氏

（精神障害者当事者夫婦の会 負けてたまるか代表）

定員：会場 300名（先着順）事前申し込み必要

：Zoom 100名（先着順）事前申し込み必要

入場無料

申込み（Zoomの申し込みはメールのみ）

FAX：045-548-4836

Eメール：ysskr@bloom.ocn.ne.jp



【編集後記】日々の暮らし追われている間に気がつけばもう12月。年頭に立てた誓いや目標はどこへやら、すっかり記憶の外に飛んでしまいました。それでも新しい出会いや体験があり、それなりの1年となりました。皆様にはさまざまな場面でご協力いただき、ありがとうございました。よい年をお迎え下さい。
（事務局 中居）